



同窓会だより

“工学部同窓会の集い”

—第4回キャンパス交流会(講演会・懇親会)—

来春2月16日(土)に開催予定の第13回評議員会終了後、杉本キャンパスの学術情報総合センターにて、2002年の“工学部同窓会の集い”—第4回キャンパス交流会(講演会と懇親会)—を開催します。同期の友人や職場の同窓生をお誘い合わせの上ご参集下さい。

なお、“この集い”の詳細は24ページをご覧ください。

第12回評議員会・同窓懇親パーティ2001終る

2001年（平成13年）2月13日(火)17時30分より、第12回評議員会及び、同窓懇親パーティ2001を、梅田の阪急ビル“スカイルーム”にて開催した。

評議員会では、廣岡前会長の開会挨拶、議案採決、行藤新会長の閉会挨拶等予定通りに終了した。その後の同窓懇親パーティ2001では、玉村、山下、川村、中井、勝俣(故)の各名誉教授をはじめ、ミニクラス会参加者等ほぼ100名の出席者が、俳優の金田龍之介先輩（機械・昭和24年卒）のお話を拝聴した後、それぞれに歓談が弾み盛会であった。

目 次

評議員会・懇親会案内・報告	1	新学科の近況（環境都市）	17
行藤会長・福田名誉会長の挨拶	2	同窓会事務局年報・お知らせ	18
平成13年定年退職恩師の寄稿	3	第15期役員(理事・監事)名簿	18
〃	4	平成13年工学部卒業生名簿	19
学科の近況と会員短信(機械)	5	平成13年工学研究科(前博)修了生名簿	20
〃 (電気)	6	平成13年工学研究科(後博)修了生名簿	20
〃 (応化)	8	平成13年工学部入学生名簿	21
〃 (建築)	9	平成13年工学部入学生名簿(つづき)	22
〃 (土木)	11	平成13年工学研究科(前博)入学生名簿	22
〃 (応物)	13	平成13年工学研究科(後博)入学生名簿	22
〃 (情報)	14	工学部電話番号・新卒評議員・編集後記	23
〃 (生応化)	15	平成14年“工学部同窓会の集い”の詳細案内	24
新学科の近況(知的材料)	16		

ごあいさつ

同窓会会長 行藤 三男

工学部同窓会の皆様には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

今年2月からこの同窓会の会長を仰せつかり、今迄の疎遠と怠慢を挽回すべく頑張りたいと思っておりますので、皆々様のご協力よろしくお願い致します。



さて、バブル崩壊以降ここに来てやっと小泉内閣のもと前進しかけた構造改革ですが、やはり各論に入り停滞気味！ 世界貿易センタービルをはじめとする米中核同時テロ、世界は今正にグローバル化の中で、経済不況・宗教・民族の争いをテーマにした21世紀に突入して参りました。

今回のテロ行為は、私達が手に入れた自由を利用して自由を破壊しようとしている困った代物です。テロと云う真の敵とどう戦えば良いかと言う議論よりは、テロを生んだ真の原因は何か？20世紀のテロと21世紀のテロの相違も含めてこれに対応して行かなければなりません。

しかし、これとても各論に入ればまたまた反対勢力に会い渦中の流れに巻き込まれる様な気がします。これが21世紀の大きな課題だと思います。

これからの技術の開発についても、人文科学と手を携えて21世紀の課題に対応していく必要がある様に思います。

(電気・昭和36年卒・関西国際空港熱供給(株)常勤顧問)

評議員各位へ

当工学部同窓会では、今年より評議員会を毎年開催することになりました。

つきましては、**第13回評議員会**を下記の通り開催する予定ですので、是非ご出席下さるよう宜しくお願い申し上げます。

記

日 時：2002年(平成14年)2月16日(土曜)
午後2時00分～2時50分

会 場：工学部G棟1階、階段教室
(G棟は、本年竣工の新設2学科の研究・教育棟)

なお、第13回評議員会の詳細なご案内は、後日別便にてご連絡致します。そのご返信の期日は厳守下さるようお願い申し上げます。

2001年11月

会長 行藤 三男

工学部同窓会会員の皆様へ

同窓会名誉会長 福田 武人

工学部同窓会会員の皆様にはお変わりございませんか？早いもので小職が昨年4月に工学部長に就任してから2年近く経ちました。昨年この欄でお知らせしましたように、今年4月から本学において大学院部局化が行われ、われわれ工学部教員の所属は工学研究科へ



と移っております。これに伴いまして工学部長も工学研究科長となり、工学部長を兼ねているという形になっております。さらに、今年の12月に文部科学省から新しい専攻設置の認可がおりますと、来年4月には現行の8専攻が再編されて、機械物理系(機械工学科、知的材料工学科)、電子情報系(電気工学科、応用物理学科、情報工学科)、化学生物系(応用化学科、生物応用化学科)および都市系(建築学科、土木工学科、環境都市工学科)の4専攻(カッコ内は学部学科)に組織替えされます。

さて、新しい4専攻では、来年2月に大学院前期博士課程(修士課程)の追加募集を予定しております。従来の定員86名から147名へと61名定員を増やす計画をしております。また、3月には新専攻で後期博士課程の募集(定員43名)をいたします。ここでお願いですが、皆様の周りで就職しようか大学院で勉強しようかと迷っているとか、企業へお勤めで少し時間を取ってもう一度大学院でより高度な研究をしてみようとかをお考えの方がおられましたら、ぜひ本学の多様な専攻のいずれかをご紹介していただき入学をお勧めいただきたいのです。よろしく御願いたします。

ついでながら、本学では、1998年10月に産学官連携促進委員会を立ち上げ、2000年7月に財団法人大阪市立大学後援会に研究交流相談室を設け、学外との研究協力体制を整えつつあります。たまたま小職はこの産学官連携促進委員会の委員長を務めております。その関係で共同研究や委託研究を思い立たれたらぜひ本工学研究科や他の研究科の教員の研究シーズを活用していただきたいと思われれば、ホームページ<http://www.osaka-cu.ac.jp/>へアクセスしていただき、産学官連携データベースを覗いてみていただきたいと思っております。興味深い研究テーマをたくさん見つけていただけたらと思います。

新しい世紀に入ってから日本も世界も必ずしも明るいニュースが多いとは申せませんが、2002年こそ佳い年であることを願いつつ工学部同窓会会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしております。

(工学研究科長・工学部長・知的材料工学科教授)

近況旅行記

建部 渉



自分ではまだまだ若いと思っている間に定年退職になってしまいました。大学に入学した時から数えると45年、私の人生の3分の2以上を市大とのかかわりで過ごしたことになります。とするとここで、愛した市大の思い出話か将来に向けた提言の一つでも書かなければなりません。

私にはそれは寒過ぎますので近況報告ということにしましょう。

時間は十分あるし退職金も貰ったことだし、家族とのリフレッシュを兼ねて、長年の連れ合いとそれに下手な英会話で苦勞するよりも、ツアーアシスタントとしての次女と3人で、8月末から16日間ドイツ南部に旅行に出かけました。連日35℃近い大阪を昼過ぎ飛び立ち、爽やかなMünchenに到着したのは夜の9時過ぎでした。最近、不景気風の日本ですが、海外旅行者は意外と多く直通の航空便は取れず、スイス航空(10月2日に破産です)による乗り換え便でした。Zürich空港内を移動している時、通路の横のスペースにコンピュータが十数台あり、人が群がっています。これが噂に聞くインターネットカフェかと近づき、早速空いた一台を使ってみました。インターネット上のわがhotmailに入った所までは良かったのですが、私のメールボックスの中はほとんどが日本語フォント、文字化けした画面を恨めしく眺めながら、英語文化圏にきている自分を改めて実感しました。MünchenからFüssen、Neuschwanstein城と人並みの観光ルートを回りStuttgartに行きました。この街は黒い森の街々の起点でもあり、ドイツらしさを?感じさせてくれます。ディナーは美味しいSchwabener料理と辛口ドイツワイン(trocken)に十分満足し、街の中心Markt広場に出かけると大変な人出です。何かと覗いてみるとワインフェスティバルでした。これはいい機会とばかり仲間に入り、架設バーの椅子に腰掛け、ワインとソーセイジに舌つづみです。辛口ワインはさっぱりと後味も良く、飲み口も最高です。250ml入りのメモリが付いたグラス1杯5~6マルクです。テーブルの向かいに座っていたおなじ年齢好の夫婦が盛んにドイツ語で話し掛けてくれます。手まねに英語、そして40年前は“優”のドイツ語で片言のやり取りをし、やっと理解できたことは、その向こうで2マルクだせば飲んでいるグラスに望みのサイン書いてくれる。是非記念に持ち帰れということでした。そこで飲み終えたグラスを持って出かけたが人込みで迷っていると、先ほどのドイツ人が後から追いかけて来て、親切にも屋台店まで連れていってくれました。2マルク払いWataruのサインを刻んでもらい、いまは我家の食器棚の中に仲間入りさせています。

この後、Heidelbergから保養地Baden Baden、ここでは初めての5星ホテルとフリードリッヒ浴場(男女混



親切なドイツ人夫妻とサインを入れたグラス



ライン河岸(Koblenz)にて

浴)で冷や汗をかき、さらにMainzからKoblenzまでゆったりとしたライン川下りを楽しみ9月10日に帰国しました。その翌日がニューヨークのテロ事件で、何か背筋がゾーとさせられました。

では短い近況旅行記を終わります。今はこれまでをひとつの区切りとし、新たな気分での人生をと考えています。(元電気工学科教授)

【ご注意下さい!】

今年の10月上旬、「大阪市立大学工学部同窓名鑑」という出版物の案内が会員各位に届いていると存じますが、当工学部同窓会とは全く関係ありません。お間違いの無いようご注意下さい。

なお、過去にも、同様な出版物の案内状が出回り、間違っって高額の出費をされた事がありましたので、念のためご注意申し上げます。

ご承知のように、当会の会員名簿は4年毎に発行しております、次の会員名簿の出版は2003年(平成15年)12月の予定です。

2001年11月

工学部同窓会事務局

次の課題は大学院教育のレベルアップ

西村 昂



昭和38年に修士課程を修了し、助手に採用されて以来38年間の教員生活を終えて今年定年退職しました。時間的な余裕が少し得られるようになって、過去のことから将来のことまでいろいろなことに思いめぐらせ、市大はこれからどうなるのだろうかということも絶えず

浮かんで消え、クリアなイメージが結ばれません。昭和40年代半ばから50年代の高度経済成長期に工学部は長い混乱期を過ごし、他大学が大きく飛躍したときに、好機を生かせず大きな痛手を受け、その後遺症を今に引きずっていると思います。遅ればせながら、大学院大学への再編も成り、新しい試みも動き出し、努力が実りつつあります。しかし、大学を巡る動きはもっと急激な変革を求めているようです。今年10月に府知事が行政の効率化のために府市を合併する大阪都構想を打ち出したのに対して、大阪市長は突然のことで、相乗りするつもりはないと答えたと報道されましたが、効率化という時代の流れには逆らいようはなく、これは時間の問題ではないかと思われまふ。市大と府大の合併問題も視野に入れて準備していく必要があると思われ、さらにその先には阪大との合併も想定しておく必要があるのではないかと思われまふ。

当分は大学院教育の充実が最優先課題になると思われまふ。形が出来たら次は魂を入れるということですが、ノーベル化学賞受賞の野依教授はアメリカと日本の大学院教育を較べるとドクターコースのレベルで三役と十両の違いがあると新聞に語っています。大学院教育は、グローバルスタンダードに達していなければいけない。外国の一流大学の修了者と拮抗した実力、意欲、生活力を持った学生を育てなければならない。もし我々の大学にアメリカの一流大学の学生が来て、教育を受けるとしたら、「授業料を返せ」と言いますね。こんなもんじゃ話にならない。これが一番大事ですと語っています。わが国のこれまでの研究優先の考え方、研究面で成果をあげれば、教育は少々手を抜いても学生はついて来るという考え方を時代遅れと一蹴しているように思われまふ。

研究テーマの選択、および推進にはもっともっと時間をかけて考える必要があったと反省しています。忙しさにかまけてこれだけでいけるだろうと見切り発車をしていた部分が多かったように思います。かつて、工学部40周年記念祝賀会で名誉教授の井本稔先生（元学部長、故人）は来賓として、「小さくてもいい、なにかさやかな分野でいい、夫々がその分野で世界に知られる1つの研究センターになることを目指して頑張るって欲しい。」と後輩を激励されたことが耳に残っています。

大学院教育のレベルアップが現在の課題と認識することからスタートする必要があると言えらると思われまふ、これは日本全体の課題でもあり、本工学研究科も同じ改

大学の評価とは？—大阪市立大学に想う—

園田恵一郎



小生この3月末をもって大阪市立大学を定年退職し、4月より大阪の某私立大学に勤務しております。振り返って見れば、昭和32年4月に大阪市立大学に入学して以来40有余年、実に今までの人生の約3分の2の時を大阪市立大学とともに過ごしたことになります。確固たる志をもって工学部土木工学科を選んだ訳でもなく諸般の事情により入学したのが偽らざるところであり、そんな自分が母校に残り教授として定年を迎えることになるなんて夢にも思わなかったことであります。

ところで、大阪市大の良さは何か？ 辞めてから数ヶ月経った今つくづく思うことは、自由な教育・研究環境、少人数の学生教育、大都市大阪という立地条件、大阪市立の唯一の大学としての市民の暖かい支援、等が他の大学にはない大きな特色ではないでしょうか？ 小生もそのような環境に育まれて今日があるように思います。

最近、大学の外部評価が大きな話題になっています。文部科学省は全国の大学院を有する国公私立の大学を専攻分野ごとに外部の有識者により評価しトップ30校に対して特別な予算をつけるための来年度予算要求を出しております。小生も数年前に大阪市立大学自己評価委員会の委員長として外部評価の導入についての多少の経験をもっています。その時に一番感じたことは“大学の業績とは一体何なのか？”という点であり、喧々譁々の議論の末に、教員の教育・研究業績、学生の資質と勉学意欲、卒業生の社会的活動など多岐にわたって評価すべき項目があるが、それらをひっくるめて卒業生の一人一人がそれぞれの人生において母校とその存在がどのように意義づけられているかが最も大切であるとの結論に達し、全学部の卒業後5年、10年および15年の全卒業生に上述の意義を問うアンケートを行いました。回答内容はその時の報告書に譲りますが、アンケート回収率は非常によく卒業生の母校に対する思いの大きさに感嘆したことを覚えております。人生における母校の意義には一人一人が教室や研究室で得たものだけでなく、クラブ活動や友人から得たものや卒業後に母校との係わりで得たすべてを含んでおります。社会で活躍されている現役の方や私のように定年になった者などが振り返ってみて、卒業した大学あるいは大学院が本当に選んで良かったと思える人が絶対数ではなく比率において多ければ多いほど良い大学、大学院であると言えるのではないのでしょうか。もちろん私にとって大阪市立大学が最良の大学であったことは言うまでもありません。

(本学名誉教授・元土木工学科教授)

革のスタートラインに立って、教員、学生、力を合わせて道を切り拓いてほしいと願わざるを得ません。

(本学名誉教授・元土木工学科教授)

機械工学科

機械工学科の近況

近況

野邑 奉弘

南谷 昌宏



緊張した世界情勢が続いていますが、卒業生の皆様方にはいかがお過ごしでしょうか。

さて、この春の4月に大阪市立大学が大学院部局化により、総ての教員の所属が大学院に移りました。いわゆる大学院の重点化が成されたわけです。これにともな

って、大学院工学研究科の機械工学専攻の教員組織が、従来の機械工学科、知的材料工学科の先生方と応用数学の先生で組織されました。このように大学院が一段とレベルの高い組織として再編され、昨年には長年続いてきました工学部機械工学科の6講座の講座制が、学科全体の大講座制に移行して1学科で1講座となりました。学部機械工学科の現在の体制をつぎの表に示しています。

専門分野	教授	助教授	講師	助手
熱工学	野邑奉弘	西村伸也		伊與田浩司
流体工学	東恒雄	加藤健司		藤本辰郎
材料強度工学	南谷征夫		吉岡真弥 川上洋司	
生産加工工学		佐藤嘉洋		
動力システム工学	脇坂知行	瀧山武	高田洋吾	
機械工作室(工学部共通)		若林三記夫		

ここで、卒業生の皆様に誠に残念なお知らせですが、この9月に生産加工工学分野の上神謙次郎教授が61歳で急逝されたことです。ダイヤモンド切削加工の権威者として研究と学生の指導に精魂を傾けられていた矢先のご不幸でした。機械工学科としまでも重鎮を失った痛手は計り知れません。ご冥福をお祈りいたします。

昨年の10月には京都大学大学院より脇坂知行先生が動力システム工学分野の教授として着任されました。材料強度工学分野の川上洋司先生と動力システム工学分野の高田洋吾先生がこの春に講師に昇任されました。

大学院の機械工学専攻は、来年の4月に機械物理工学専攻として新しく生まれ変わる予定です。修士と博士の両課程の学生数が倍以上に増え、研究中心の大学院大学を実現していきたいと願っています。そのためには、多くの博士課程の学生による研究が求められます。企業や研究所などに所属し、働きながら博士課程の学生として研究に従事し、博士の学位取得を目指す社会人ドクターコースが本学は充実しております。是非、卒業生の皆様方もこの制度にチャレンジしていただきたくご勧誘いたします。

国立大学の独立法人化が間近になってきましたが、この競争原理の波及は大阪市立大学もその渦の中に巻き込まうとしています。機械工学科も産学協同研究を始め、多くの分野との積極的な共同研究に鋭意取り組みを始めています。卒業生の方々のご支援をお願いいたします。

(機械工学科主任教授)



皆さん、お元気ですか？ 思い起こせば、卒業後既に25年を経過し、肩から首にかけての痛みも医者に言わせれば「首の骨の軟骨部が擦り減り始め、神経を刺激しており、姿勢を良くする事、適度な運動をする事位しかないですね」との事で、自分も若くはないと

自覚させられる日々を過ごしています。3年程前、機械工学51年卒生の同窓会で大阪で皆様にお会いした時は、一部の方を除き、卒業以来の御対面で、変貌著しい方、全く学生時代そのままの方、共に話して見れば、皆さん昔のままで、安心しました。我内燃研の野邑先生、流体研のガーファンクル東先生(失礼!)他、南谷先生、上神先生が御活躍されているのを聞いて、頼もしく思いました。

ところで、私は会社でトラックの商品プロジェクト関連の仕事をしておりますが、長引く不況で、今まで以上に収益の出る、雇用を確保できるプロジェクトを求められています。苦しい状況は、皆様方も同様と思います。私達50歳台に差しかかろうとする年代にとっては、これを好機と捉えるか、災難と捉えるかで今後が決まってくると思います。健康第一でやっていければと考えています。(機械・昭和51年卒 日産ディーゼル工業(株))

センスが重要

山崎 智昭



私は自動販売機の設計を行っています。入社してから十年近くになりますが、その半分以上は冷却機構の開発と設計に従事してきました。

自販機の冷却機構は、エアコンのように冷却機能そのものが製品としての主機能というわけではな

いので、開発者の人数はさほど多くなく、新機能研究から製品設計までの一連のプロセスを一人でこなすことになります。

そのため、とにかく幅の広い知識と、それを使いこなすセンスが必要です。研究の方向性を決定する際には可能な手段と効果を学術理論的に検証し、実験評価の際には確率統計理論、製品設計時には加工技術など、持てる知識は総動員です。これらのプロセスはある程度パターン化して、最小限の専門知識の範囲でそれなりに行うことも可能でしょうが、新しい物を創造する時には、道具としての知識の幅、どの局面でどの知識をどのように使えるかというセンスが成果に大きく影響します。

大学で学ぶ教科のなかには直接的には自分の目指す道

電気工学科

電気工学科の近況

志水 英二

まずは、先生方の近況をお伝えするために卒業研究テーマのキーワードをご紹介します。相変わらずのテーマやなあ、おっこれは！と思われるテーマなどなど、超合理化による生き残りが叫ばれる社会情勢の中、大学も「独立法人化するのか、どこを合併するのか」と大きな波が押し寄せつつあります。が、電気工学科は相変わらずのマイペースで、15人の先生方がややこしい学生に悪戦苦闘？しております。

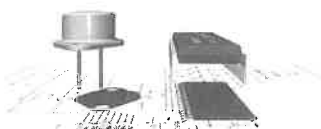


鈴木：人体深部加熱、南：超音速プラズマジェット、武智：プラズマと磁場、志水：知的作業服、高橋：3次元ディスプレイ、重田：視覚神経回路網、青笹：フォトルミネッセンス、前川：FPGAによるCPU回路合成、草開：薄膜生成過程、田中：有機薄膜精製、松下：光マイクロマシーン、中川：パルス電子ビームアブレーション、宮崎：薄膜画像センサ、辻本：マイクロ電磁機能素子、村治：酵母電気穿孔

ひさしぶりの主任で学部20人、院生20人の就職の世話をしました。7月までには終わろう、と思ったのが幸いして滞りなく全員、超一流企業に次の進路を見つけることができました。これも諸先輩のがんばりのおかげです。ありがとうございます。リクルータとしておいでいただきながら、お応えできなかった方々には本当に申し訳ありません。これに懲りずに来年もお越しくください。

最近では大学にとって産学連携が大切な機能になりつつあります。大学側から見れば、研究成果の社会への還元と次の研究基金の獲得が目的です。これは、大阪市民の血税をいただいている本学にとっては、大事にしなければなりません。産業界のみなさんとの共同研究は電気工学のように実利用の色濃い領域では研究を進める上で大いに刺激になります。少しでもなんらかの形でお手伝いができることがありましたら、まずは、メールをください。simizu@elec.eng.osaka-cu.ac.jpです。

昨年もお知らせしましたように、社会人の大学院コースを充実させつつあります。技術の流れはますます加速しています。最新の技術を学ぼうと思われているみなさん、一仕事終え新しい道をめざしておられるみなさん、是非ともおいでください。（電気工学科主任教授）



には関係ないように見えるものがありますが、そのような教科のセンスをしっかりと学んでおくと、後で何かを生み出す時に切れる手札の幅が広がります。

(機械・平成4年卒・三洋電機株)

わたしも子持ち（基礎は大切）

衣川 成也



大学を修了して3年半が経ちます。お世話になった先生、先輩方、ご無沙汰しております。

私は今、トヨタ自動車工場での技術員を務めています。新製品切替の生産準備業務や、量産ラインの“改善”を進めています。生産部門への配属ということもあり、

残念ながら大学時代に勉強した専門分野の知識が発揮できず、「やっぱり大学で勉強することと、会社（≒社会）で役に立つことは別か…」と思っていました。しかし、先日、材料力学で勉強した“モールの応力円”の考え方を使う事例に出くわしました。当時の講義を思い出し、懐かしさを覚えつつ仕事をしていました。「大学で学ぶ基礎学力って使えるんや」。偉そうに言うが、後輩諸君、基礎は大切だぞ！使えるぞ！

ところで、こんな私にも、3ヶ月になった息子がいます。最近では、異常に多忙で、平日は2時間ぐらしか寝顔を見ることができませんが、休日には…一緒に寝ています。(^^) “まとめ”はもうおわりかと思えます。我が息子にも“基礎は大切”の精神で、小さな頃からゆっくりと元気で良い子に育てようと思っています。

みなさまお元気です。

(機械・平成10年修・トヨタ自動車株)

(P7右側よりつづく)

営業スタッフは、全員技術系が中心です。

特に私は、わが国を代表する大手企業が並ぶ滋賀県（大津、草津、栗東、竜王、水口etc）を中心に、お客さまの都市ガス需要とまだまだ未整備な都市ガス導管を睨み合いながら計画的・効率的にネットワーク整備を企画し、環境問題が深刻化する中で、省エネ、CO₂排出量削減に大きく貢献できるコージェネレーション（自家発電）のご提案を行なっております。また、これ以外にも空調問題（夏季需要大の冷房用電力負荷と冬季需要大の暖房用他燃料（都市ガス含む））の準標準化提案や単純燃料転換など数々のご提案もしております。エネルギーでお困りの方は、気軽にお声をかけていただければなんなりとご相談させていただきます。大阪商人大阪ガスがWIN-WIN（互いにメリットを得る精神）に基づき解決させていただきます。（電気・平成7年修・大阪ガス株）

教員生活40年の今昔

金田 彌吉



私は関西大学の専任教員として40年勤務し、定年退職後も非常勤で出講しています。

就職した頃は、まだ昔ながらの学生服を着た学生もかなり見受けられ、正門前には角帽やバッジなどを専門に売っている小さな店や、古くから学生らに親しまれた食堂

などがありました。また、文系の教授のなかには、いつも羽織、袴姿の先生もおられ、正門前通りはいかにも大学通りと言った感じでした。

それが、大学紛争を一つの契機として大きく様変わりし、40年余りも経つと当初とは余りにもかけ離れた姿に啞然といたします。

今では、服装は勿論全く自由、カラフルな感じさえいたします。また、茶髪の子学生も少なくありません。正門前にあった古い店は全て姿を消し、新しい感覚の書店やレストラン、さらにはスーパーやゲームセンターなどが立ち並び、正門前通りは車や単車が横行し、歩行者は前後左右の十分な注意が必要です。

他方、世の中はその間、高度成長の大浪に乗って飛躍的な発展を遂げ、大学では学部・学科の増設に伴う敷地や学舎の拡張・充実、並びに諸施設のIT化が進み、従来の感覚では予想もつかないほど大きく進歩しました。

しかし昨今は、バブル崩壊後の不況と少子化のダブルパンチを受けて、大学経営の手腕が厳しく問われています。

(電気・昭和24年卒・関西大学名誉教授)

卒業して45年

荒木 萬治



電気工学科を卒業して45年。その間、田中通教授推薦の日本防蝕(3年)、父親の後継で大甲電気(30年)、大氣社(12年目)。大甲時代は、工事関係以外の銀行対応(資金繰り)が大変勉強になり、今でも一番親しい関係。

30年に及ぶ長期マンネリの払拭を考えていた時、墜落事故が発生し、解決に半年掛ったが、この機会に、実弟と交代した。最重要顧客大氣社長様より電気計装部の設立要請を受け入社。2年目に電気工事特定建設業(建設省)を取得。その後、営業の訪問顧客役員名に同窓生が多数あり、営業推進部で現在に至る。松下電器、三菱電機、旭硝子、日東電工、関西電力等を継続訪問しています。松下元副社長村瀬三氏には特に援助を頂いている。村瀬氏は現役時、松下ビデオを世界一にし、夏冬オリンピックの担当役員12年間。サマランチ、江沢民他国内外の有力者が多数知人。H11年秋藍

綬褒章。市大の誇りです。現在もNPOでベンチャー企業を育成している。栗政幸一氏(元松下、現市大同窓会理事)にも、昨年で15回目の、東南アジア日系企業歴訪の継続紹介を受けている。振返れば、活力、気力も含めた同窓生よりの援助に支えられた45年です。

(電気・昭和31年卒・㈱大氣社)

地下鉄建設に携わって

松澤 俊明



2001年の七夕の日、神戸市営地下鉄の新線・海岸線が開業しました。私が神戸市に就職する頃に建設が始まったこの新線の建設の中で、車両の担当として設計段階から携わってこれることができました。子供の頃から今も鉄道好きのままの私には願ってもない仕事です。

設計・製作段階を経て開業の1年前、いよいよ車両第1陣が地下の車庫に搬入。車両だけでなく地上装置を含めた様々な調整・試運転から始まり、続々と出来上がってくる新車の性能確認、乗務員の訓練運転などを経て何とか無事に開業の日を迎えることができました。

車庫も含めて全線地下であるため、モグラのようにひたすら地中のトンネルを往復する毎日、太陽の明るさのありがたみをしみじみと感じた1年でした。

引き続き、乗り心地、保守の効率化に向けた自動検査機能の向上などに力を注いでいるところです。

鉄道の仕事に就いて、改めて鉄道の安全輸送が、鉄道事業者だけでなくメーカーを含めた多くの人々によって支えられていることを実感している今日この頃です。

(電気・昭和63年卒・神戸市交通局)

大阪商人の大阪ガス

福田 琢也



1995年(阪神大震災の年)、大阪ガスに入社して7年目です。現在、私は、大阪ガスの全ガス販売量の約50%強を占める産業分野に都市ガスを拡販する業務に従事しております。産業エネルギー部門は、単なる都市ガスの販売営業ではなく、お客様の現状のエネルギー

状況、更には将来のエネルギー状況に対して都市ガスをベースとした様々なエネルギープランの提案営業を行っております。そのためには、お客さま設備全体をコンサルティングし、①お客さまの課題の抽出、②お客さまのニーズにマッチした最適システムのご提案、③都市ガス化導入工事(機器施工含む)、④ガス契約までの一連の作業を物件担当者が中心となって進めております。

(P 6 左側38行目へつづく)

応用科学科

応用化学科の近況

三浦 洋三



同窓会の皆様には益々ご健勝、ご活躍のこととお慶び申し上げます。昨年10月に発行されました第16号「同窓会だより」以降の応用化学科の状況を中心にご報告いたします。

まず、工学部は、平成11年4月に10学科体制になり、同時に各学科は大講座制に移行しました。応用化学科では、朝見健二助教授が平成13年4月に北九州市立大学国際環境工学部に教授としてご栄転され、これに伴って、来谷紀嗣助手が平成13年4月に講師に昇任されました。従って、現在の教員構成は、無機工業化学分野は小槻勉教授、澤井圭二郎助教授、五百井正樹助手、有機工業化学分野は、米澤文幸教授、南達哉講師、片山博之助手、高分子化学分野は、三浦洋三教授、園藤紀代司助教授、工業物理化学分野は、米澤義朗教授、松本章一助教授、セタルンド・バル・ポー助手となっています。朝見助教授の退職にともなって生じた助教授席につきましては現在公募中です。

さて、大阪市立大学は、今年度4月に大学院のいっその充実と高い学問レベルの維持をめざして、いわゆる大学院の重点化を行いました。これに伴い、工学部教員は大阪市立大学大学院工学研究科に所属することになりました。また、来年4月に大学院の再編が行はれ、応用化学専攻と生物応用化学専攻がまわって1専攻に統合されて化学生物系専攻になり、計28名の教員が協力して教育・研究に携わる予定です。現在、内部からの前期博士課程（修士）への進学者は多く、十分に定数が満たされていますが、後期博士課程への進学者は多くなく、定数を確保するのに四苦八苦しているのが現状です。工学研究科では勤務しながら大学院で学べる社会人ドクター制度や在学期間の短縮など、社会人がより手軽に後期博士課程で学べるように制度の改革を押し進めてきました。もう一度大学院で学び新たな飛躍を図りたい、あるいはリフレッシュしてもう一度活力を取り戻したいとお思っている方はぜひチャレンジしてください。

応用化学科、応用化学専攻ともに全国最小規模の学科あるいは専攻ですが、教員一同きめ細やかな教育の実践や研究の一層の充実に向けて鋭意努力しています。工学部同窓会の皆様、今後共なお一層のご支援の程、よろしくお願い申し上げます。（応用化学科主任教授）

（右下よりつづく）

意志を集めて調和のとれた地球を残したいものです。

追伸、福山大学工学部の生命系3学科は来年度から生命工学部になります。良い意志が集まっていますよ。（応化・昭和50年卒・福山大学工学部応用生物科学科）

市大で学んだこと

岡田 君仁



2回生の終り頃から全国的な学園紛争の波が市大にも打ち寄せ、その中でノンポリ学生でもなく、何らかの関わりを持ちながら、工学部D棟で学生生活を満喫して卒業しました。その時代の政治経済や、公害問題に、仲間達、先輩達と夜を徹して議論したこともあり、そのような時に大切に感じたことがあります。それは、授業で学んだ「定義する。」ということです。議論するにしろ、思索するにしろ、使う言葉がキチンと定義されその定義づけられた意味を十分に理解した上で用いなければ、議論や思索は、論理性をなくし、情緒性だけのものとなり、最後は感情的なものだけが残り決して真理に近づかないということを知りました。市大を卒業し、会社に入ってから、同じ会社の中で又は別の会社の人と話しをするときにも可能な限り、「定義づけする。」ことを心がけています。海外の人々と交渉したりするときには、自づとその事が彼らの身につけているなと感心します。議論は議論として白熱しますが、決して後に尾を引かないのです。定義から始めることを学んだ事が今、大いに役立っています。

（応化・昭和48年修・永大産業㈱）

ありがたいこと

山本 英二



大学を卒業後大学院で5年、就職して堺化学工業㈱に11年、福山大学で10年の年月を経ました。市大にいた期間が長かったので、その後の生活はすべて市大の研究室で積み重ねた経験や知識が基になっています。

就職は原納先生の御紹介で、大学の研究が生かせる職場に就くことができました。研究室で同時期を過ごした先輩の方々は毎年家族旅行を共にしています。また、就職してからお目にかかる人や実験の装置や得られる現象はいずれも大学で学んだことに何か関係しています。ありがとうございます。

NHKのラジオが「ありがとう」というのは「有難う」だと思ひださしてくれました。文字どおり確率の低い良いことが起こって感謝していますと言うことでしょう。

世の中には、良くて悪くても有り難いことだらけです。いずれの場合も人間の意志が物を作り、事を起こしている気がします。携帯テレビ電話、ロボット、遺伝子組み換え、クローンや最近の戦争、等々。たくさんの良

（左側下部へつづく）

建築学科

諸先輩から頂いた宝物

奥尾 雅巳



入社して14年間になります。その間、高分子関係のテーマに携わり続けてきました。

数年前より、電子材料の開発に従事しております。情報収集とテーマ探索のために自らも動くことにしました。

その際に取った方法の一つが、市大工学部同窓会名簿から探した電子材料に関連する諸先輩方に電話やEメールで連絡を取ることでした。数名の方々については実際に訪問して話を伺いました。私には、全く面識のない方ばかりでしたが、何れの方も快く対応していただきました。その中の数件につきましては、実際にサンプルのやり取り等をお願いできました。現時点では、その中のテーマで採用までに至ったものは、残念ながらございません。しかしながら、電気メーカーで研究開発をされている諸先輩方と接触することにより、電子材料のスペックの厳しさやこの分野における対応スピードの重要性を痛感することができました。

本年4月、当社に電材事業開発部が発足いたしました。私もその一員として新規事業の立ち上げに奔走しております。今こそ、諸先輩から頂いた電子材料開発に必要な感覚を十二分に活かしたいと考えております。

(応化・昭和62年卒・日本油脂株)

近況報告

山本恵美子(旧姓中川)



入社以来、乗用車用タイヤの開発業務に携わり8年目になります。景気の低迷が長引き、タイヤメーカーを取り巻く環境も厳しいのですが、安全・環境を念頭に置き、新しい技術への発想と素早い商品開発に、日々努力しています。就職活動時は「研究内容を仕事に活かしたい」と強く望んでいましたが、入社後は大学で得た知識が一握りの知識でしかなかったことを痛感しました。今は毎日が新しい分野の勉強であり、楽しく感じています。クライアントへのプレゼンを任せられることも多くなってきました。女性の技術者の数はまだまだ少ないですが、責任感をもって仕事を進めています。

ところで、入社するまで私はペーパードライバーであり、車に全く興味がありませんでしたが、今ではマニュアル車も運転でき、信号待ちをしている車の装着タイヤに無意識に目がいつている自分に気づきます。公私ともに、5年目の自分とは大きく変化し、成長したと感じます。今後も女性の感性を活かしながら、常に5年後の社会や技術、そして自分の姿を描きつつ過ごしていきたいと考えております。(応化・平成6年卒・住友ゴム工業株)

建築学科の近況

西岡 利晃



初めての学科主任として、勝手の分らないことが多く、教室のみなさんには、大変迷惑をお掛けしながら、暖かいご協力を頂き務めております。

本年のトップトピックスは、大学院の部局化に伴う大学院大学化で、正式名称が工学部から大学院

工学研究科に変わりました。引き続き専攻科が再編されます。詳しくは、他項を参照下さい。新設2学科の新校舎も完成し、昨年11月から入居が始まり、地域環境のスタッフがそちらに移転されました。

現在、学科は、防災、構造学、環境工学、計画及びデザインの5分野(教室がこのように呼ばれる)になりました。スタッフの異動では、昨年10月デザイン分野担当の教授として、箱の家で有名な難波和彦先生が東京より赴任され、「サステイナブルな設計の出来る人材を育てる」と教育・研究に張り切っておられます。5月には、難波先生のご尽力で、安藤忠雄氏の講演会を学情10F会議室で持つことが出来ました。学内外から千名を越す聴衆が参加し、会場に収まりきれない人々は研修室などに臨時に設けられたテレビによって聴講しました。

本年の3月には、環境工学分野の新居洋子講師が定年により退職され、代わって4月に梅宮典子講師が京大より赴任されました。お住まいも京都から、近くの阿倍野に移され、朝早くから教室に来られて新居先生の後の音響環境をはじめ、温熱環境など幅広く精力的に教育・研究に勤しんでおられます。新居先生は、これまでと全く異なった陶芸に没頭されるようで、どこかのサロンで個展に出くわすかもしれません。

10月には、防災分野の谷口徹郎助手が講師に昇任されました。7月の可視化情報シンポジウムでの発表「陸屋根面上に形成される円錐渦」で、グッドプレゼンテーション賞を受けられましたことを併せてお知らせいたします。同じ顕彰で特筆すべきことは、防災分野の谷池義人教授が、「建築構造物の空力不安定振動と剝離渦に関する研究」で2001年度建築学会賞(論文:構造分野)を受賞されました。陸屋根の隅角部に交互に発生する外部風による渦の華麗な可視化映像をはじめ、舞州での外部風の長期観測など精力的に活躍されています。

学生の進路は、学部卒業予定者43(8)のうち大学院進学11、就職内定18(8)。(括弧内は、女性。以下同じ)就職先内訳は住宅メーカー8、公務員、ゼネコン、設計コンサル、各2、その他4で、住宅メーカーの突出が目立ちます。大学院は、卒業予定者12(4)、内定者はゼネコン4。設計コンサル、公務員各2。住宅メーカー、その他各1、大学院後期博士進学1です。10数名の未定者がありますが、今年度に限り、専攻再編に伴う大学院定員増分の募集が年度末にありますので、大部分がこれを目指しており、残る数名は主に公務員再挑戦組。建築

関係の現状から見ますとほぼ満足できる結果ではないか
と思います。これもひとえに同窓生の皆様のご尽力の賜
と感謝致しております。引き続き、ご支援のほどよろし
くお願いいたします。

現代建築の技術的水準を象徴するニューヨークWTC
ツインタワーの崩壊は、建築を生業とするものにとって
衝撃はひとしおでした。あのような崩壊の仕方を前もっ
て予測できるものはいなかったのではないのでしょうか。
そのことが志望者の数を増やしたような気がします。謹
んで犠牲者の冥福を悼みたいとおもいます。

最後になりましたが、皆様のご活躍と健康をお祈りい
たします。
(建築学科主任教授)

文明の利益はもう沢山

都築 周



私も早、古来稀なる齢となりま
したが今だに細やかな建築設計事
務所を営んでおります。開設以来
40年近くなるのですが事務所内の
雰囲気も随分変りました。以前は
作図は勿論手描きで製図板に向
かって悪戦苦闘したものです。と
ころが今事務所内を見渡しますと

皆パソコンの画面を睨みながらキーボードを叩いていま
す。誰も鉛筆なんか持っていません。年寄りの愚痴かも
知れませんがこれには少し淋しい気がいたします。

今街中での携帯電話の氾濫振りには驚くばかりです。
絶えず指を動かしておりその景色には正直な所嫌になり
ます。

コンピューターの普及は情報の多様さ、その量の多さ、
そしてその伝達速度の速さは社会の様相を一変させまし
た。しかしその利便性ももたらしたものは結局社会を複
雑にし競争が激しくなりそしてゆとりがなくなるという
ものではないでしょうか。

もうこれ以上文明の発達はして欲しくない。半導体よ
りも真空管の時代が懐かしい。正直いって私は江戸時代
のように刻の鐘が頼りの生活をしてみたい気持ちです。

(建築・昭和29年卒・(株)建築技研)

今「欠陥建築」の調査診断及び鑑定の仕事も

中本 嘉彦



最近、個人事務所ながら建築
の企画立案のお手伝いをしながら、
弁護士や裁判所はもちろん直接個
人より依頼を受け、「欠陥建築」
の鑑定や調査診断の仕事で忙しく
しております。

(建築・昭和40年修・JIA認定建築
家一級建築士事務所 中本建築事務所代表)

設計を業として行う者

東条 善彦



設計を業として、思うこと
住宅を専門に仕事をされている方
には、当たり前のことなのだろう
けど
特に、民間のマンションを、
賃貸であろうと分譲であろうと
それが商品であるということ、
強く感じている

その商品のコンセプト、立地や時勢から導かれる
もっとも収益が見込まれるコンセプトがあり

それを咀嚼し、設計という提案を行う

LDK型が無難であると提案することもあれば
違ったプラン、違った生活を提案することもある
それは施主と共に作る作品であり

住まい手に向けた生活の提案を込めた商品の提案である
設計を業とする、ということの一面は

家という商品を提案することであり

家という製品をデザインし、それを社会の中に着地させ
ることである

そういうことなのだなあ

と思う

(建築・平成1年卒・(株)大建設)

『追われなくとも』

寺山 麦



およそ一年前、建築学科に赴任
してこられた難波和彦教授のもと
で、私は去年の暮れより設計の実
務をお手伝いさせていただくこ
とになった。数多くの偶然が重な
った結果だった。

そして、年明けに際し、毎年自
作の木版画でつくっている年賀状

に、今年はトビウオの図柄を採用した。長野県の小さな
街から大阪に出てきて10年目を迎えようというときであ
り、それはすなわち、大阪市立大学に通い始めてからの
年月と同じである。トビウオに込めた思いは、ひととこ
ろに長く留まり続けて小さな世界しか知らない私が、さ
ていよいよ外の世界でちゃんとやっつけていけるのだろうか、
海の中を飛びだして、果たして空はどんなだろうか。

年の暮れというにはまだ早いけれど、振り返ってみる
にこの一年は、まさにトビウオのように海面すれすれ、
低空飛行の日々だった…。

最近聞いた話ですが、トビウオが空を飛ぶのは、実は、
敵に追われているときなんだそうですね。どうりで、こ
の一年いつも何かに追われているような気がしていたわ
けです。

(建築・平成10年修・本学建築学専攻後期博士課程3回生)

土木工学科

土木工学科の近況

角野 昇八



地球温暖化のせいか、時に暑い日も続く今年の秋です。構内のケヤキの紅葉も例年より少し遅いように感じられます。建設業界ばかりか分野を問わず先行き不透明で混沌とした世の中となつてまいりましたが、同窓生の皆様方におかれましてはいかがお過ごしでしょう

うか。

さて、今年の学科内の大きな動きとして、3月をもって園田恵一郎・西村昂両教授が定年退官され、名誉教授になられたことがまず挙げられます。両教授に2年先立つ中井博教授の退官と併せて、学科の指針を指し示し、また後輩教員を叱咤激励してきていただいた同窓教員が学園を去られたこととなります。学科内は随分と寂しくなりましたが、その一方で今年4月から園田教授を継いで小林治俊教授が、また西村教授を継いで日野泰雄教授が各々助教授から昇任されて構造工学、土木計画学各研究分野を継承しておられます。一昨年の北田教授の誕生以来、これで我が土木工学科の教授5名のうち4名が創設時以来3代目の教授となりました。このほかにも、土木計画学分野では、本年10月1日より内田 敬助教授（40歳）が東北大学より赴任されてされました。氏は、本来のご研究の他に、スポーツ万能、多芸多趣味の様子であり、お酒も嗜まれますので、今後を楽しみにしております。このように、巨人が去られた一方で新陣容となった土木工学科ですが、従来以上に研究や教育、社会貢献に益々励みたいと考えております。同窓生のみならず、旧来以上にご支援とご指導をお願いするものです。

ところで本年度入学の学部新入生は33名（うち女性2名）でした。6月30日には講義の一環で全員が関西新空港の2期工場の現場見学に行きましたが、広い海原と土木工事現場の規模の大きさに圧倒されるとともに、生まれて初めて経験した船酔いにその日の印象を胸に強く焼き付けて帰ってきた様子でした。大学院の前期博士課程には、22名（うち女性2名、留学生1名）が入学しました。平成12年度から取り入れられている推薦入学（学外学生向け）の学生と合わせて学外からも何名かの入学があり、学科内にもぎやかな毎日となっています。一方、後期博士課程には7名（うち社会人3名）の入学が4月にありました。また特筆すべきは、本年度より後期博士課程で10月入学制度が導入され、土木工学専攻で早速2名（社会人1名）の入学があったことです。社会人ドクターの方の入学は、学科・研究室・現役学生諸君にとりまして、色々な形でいい刺激になるものと期待しております。

ご存じのように「建設」を取り巻く環境とそれを見つめる世情には、昨今非常に厳しいものがあります。この

ような情勢から、就職戦線も一段と激しさを増していますが、今年の特徴としてはなによりも、卒業予定者が民間よりも自治体・公社・公団に集中する傾向となったことです。本年度の卒業予定者は、学部生46名、院生（修士）21名の計67名ですが、学部生のうちには25名が進学（あるいは予定）であり、また院生のうち2名が後期博士課程進学希望ですので約40名が就職ということになりますが、このうち民間を希望したのは十数名でした。おかげさまで例年のように、こちらは全員の内定を頂いているのですが、自治体などは試験や発表の時期が遅いところがあり、全員の行き先が決定するまでには多少時間がかかります。現在時点、前期博士課程生では、進学2名、国家1種1名、2種1名、大阪市・府、京都市4名、公社・公団5名、建設業2名、コンサル3名、メーカー1名、その他2名で、学部では、進学26名（他大学及び希望含む）、名古屋市・和歌山県・岐阜県3名、公社・公団1名、建設業6名、コンサル3名、メーカー1名、その他6名（衛星都市結果待ち含む）です。

いま、日本の大学はさまざまな局面で「構造改革」の試みや実行がなされています。本学でも、本年4月より大学院部局化がなされました。これにともない、教員の所属は大学院工学研究科土木工学専攻となり、環境都市工学科所属の2研究分野もこちらに所属しています。また、来年4月からは、工学研究科の再編が行われ、（文部科学省に申請中）、土木工学・建築学・環境都市工学の3学科の上に「都市系専攻」が立ち上がる予定です。これに伴って、大学院では土木・建築などの分野の垣根を越えた広い視野の下での教育をめざすとともに、生態学や環境学など異分野の学生さんにも広く門戸を開けた体制とすることをめざしています。このほかにも、文部科学省の「国公立トップ30」構想や産官学連携に関連する動きなど、大学を取り巻く環境はめまぐるしく動いているのが実状です。目に見える形のものとしても、旧教養地区の一部建物の建て替え工事（地上5階、地下1階、延べ床面積125,00㎡）がまもなく始まりますし、JR阪和線の高架化工事が大学近くまで来ています。環境都市工学科の一部が入っている今年4月オープンの新しい研究室棟を合わせ、変貌する大学とその周辺の姿をみなさん久しぶりに見に来られませんか？一同お待ちしております。（土木工学科主任教授）

（P12右側下よりつづく）

され、その詳細調査として下部洪積層にロッド式沈下計とワイヤー式沈下計を設置しようというものです。

ところで私は今年の9月に地質調査技士資格検定に合格し、ようやく資格と呼べるものを取得致しました。今後も更なる資格を得るべく仕事の合間（殆どありませんが…）を見て努力しようと思っております。昨今は建設業界にも不況の波が押し寄せ、我社もそのあおりをまともに受けて厳しい状況となっております。せめて資格なる肩書きを持つことで少しでも心の支えにしようと思うことは、端から見れば他愛もない事なのでしょうか？

（土木・平成10年修・川崎地質棟）

卒業後約半世紀

井田 憲治



昭和三十年（一九五五）に土木工学科を卒業して約半世紀になる。社会に出てからこんなに時間が経過していたとは信じられない気分にある。しかし、これほどの年月を社会に身を置いてきたのであれば、私として社会にいかような置土産をしてきたのか、社会へは何

を貢献してきたのかと自問自答するに、適確な回答を見出せない自分にいささかのいらだちをみる。

そこでこれからの生き方として、社会への貢献という大上段の振りかぶりは手に負えないので、今までに自分でできなかったこと、勉学や興味がなくて実行できなかったことなどをいくつかでも手を染められれば、これからの自分の生き甲斐にもなり、文化の底辺の拡張にも繋がるのではないかと考えるようになった。

先づ手始めに仏教美術にとり組んでみたい。奈良・平安・鎌倉時代に多くの仏像や仏画が制作された理由。それらが人々の心に何を訴えていたのか、人々はそれらから何を掴んでいたのか（既に多くの学識者から回答は出されているが）自分なりに探っていくのが楽しみで、広く世間が問うているものを求めていきたいと考えている。

（土木・昭和30年卒・西松建設㈱）

生き甲斐と活力

岸田 博夫



昭和45年（1970年）、大学を卒業して社会人になってから早いもので30年以上が過ぎ、私の同級生も「オジン」の仲間入りをする年齢になってきました。その当手を振り返ると、学生運動が非常に盛んで、今の時代には無い活力があったと思います。

さて現在の世界、特に日本の中を見回すと、街のあちこちにフリーターと称する若者が溢れ、何を職業にしているかが全く想像できません。大学でも何を専攻しているかわからない、自由学生のような若者が増え、卒業後もフリーターという若者も多いはずですが、しかし、何れは今の私どもの年齢になることは間違いありません。そこで「生き甲斐とは？」と自問自答した場合、なかなか答が出てこない人が多いでしょう。今の世の中はこのようにことを考えなくてもよい社会になっているのかもしれませんが。この「生き甲斐」は人間の欲望と大きく関係していることは間違いありません。本来持っている人間の欲望が文明を発達させ、あらゆる面で活力になって現われることになるのです。今の日本にはこの活力が無い、すなわち1人1人に欲望がない。また、欲望がなくても

暮せる。逆に、変に欲望があると自分が苦しくなる。このような悪循環になっているのではないのでしょうか。

これからの日本、構造改革も大事ですが、みんなが大きく欲望を持ち、生き甲斐と活力のある社会にしたいものです。

（土木・昭和45年卒・近畿建設コンサルタント㈱）

新たな目標づくり

寺本 譲



平成3年に修士課程を修了し、大阪市役所に入りました。総合交通体系や駐車問題などの交通政策をかきり、以来、市内の開発計画や都市計画、現在、総合計画を担当しています。珍しく計画部門ばかりを経験しました。

最近の就職難で公務員が人気とか（?）。「安定してますから。」と今年の新人も言うが、「本当にそうだろうか？」と言うのが最近の私の心境です。

「大阪市の都市戦略は？」という問い合わせが多くなりました。大阪市の「大阪市総合計画21」は、平成2年の策定以来、既に10年が経過し、次のまちづくりの方向性を検討しなければいけない時期に至っています。「これからの総合計画は如何にあるべきか？」これが私に課せられた現在の仕事です。予見となるべき人口や経済指標の予測が難しく、今後の計画づくりを一層難しくしています。景気、雇用とも最悪な状況の中、このような社会の閉塞感を何とか打ち破るような新たな目標が示せないかと考えています。

公務員生活も早や11年目を向かえました。年男でもあり、自分の人生においても新たな目標づくりが必要な時期にきたような気がしています。

（土木・平成3年修・大阪市役所計画調整局）

心の支えとは？

住 武人



平成10年に修士課程を修了し、川崎地質株式会社に就職してはや3年が経ちました。現在は同社の神戸支店に勤務しております。これまでに担当した業務内容は主に港湾・空港に関する事で、関西国際空港および神戸空港における工事、土質調査、地盤変形、安定解析業務等です。現在は関西国際空港の下部洪積層に沈下計を設置する工事を担当しております。この業務は従来、関西国際空港の地盤沈下はM a 3層よりも浅い層での沈下がその大半を占めると言われていましたが、近年M a 3層以深の下部洪積層でも沈下が生じていることが確認

（P11右段下部へつづく）

応用物理学科

応用物理学科の近況

中山 弘



卒業生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか？

本年度学科主任を仰せつかりました新米教授の中山（弘）です。この紙面をお借りしまして簡単に応用物理学科の近況報告をさせていただきます。今年はおかねてより計画されておりました大学院の再編が実現しようとしています。今年度文部科学省に申請しております大学院の再編では応物は電気、情報の各専攻と合体し、あらたに電子情報系専攻という大学院専攻がスタートすることになっています。残念ながら「応用物理」という名前が大学院専攻名から消えてしまい、応物のIdentityが問われる事態になっています。そのため学科内で、時間をかけて今後の応物のあり方を議論しているところです。言うまでも無く「応用物理」は「物理の応用」ではなく、物質・材料科学、光学、量子エレクトロニクス、結晶工学、数理工学、計測学、真空工学など工学の基礎となる独自の学問分野をカバーしており、その故にこれまで日本の科学技術の種々の分野で応用物理学科出身者が活躍することができた、と考えています。またこの意味で科学技術立国をめざすわが国において「応用物理」の果たすべき役割は従来にも増して大きいものがあると認識しております。新専攻の発足にあたり、応物としてはこれらの独自の分野を発展させつつ、電気、情報工学分野の先生方との共同で新しい研究分野の開拓に取り組む計画です。

さて、今年度も応物の教員の移動がありました。平成13年3月には電子物理工学分野の藤井康夫先生がご定年になられました。長期にわたるご尽力にこの紙面を借りまして感謝いたします。また、その後任として物性制御工学分野に福田常男助教授が平成13年4月1日付けで着任されました。福田先生はNTT基礎研、同サイバースペース研究所を経て本学に採用されました。先生は半導体のエピタキシーや結晶表面の構造観察が専門です。

この紙面をお借りして、大変悲しいお知らせをせねばなりません。平成13年9月、応用分光計測学分野の三村三木夫助教授が急逝されました。三村先生は5年ほど前から原因不明の体調不良に悩まされており、治療の甲斐もなく帰らぬ人となりました。温厚な人柄から同僚や学生に慕われ、また学科でも就職担当などで献身的に仕事をしておられる中での事でした。さらに訃報が重なり、同じ、平成13年9月、名誉教授の勝俣先生が亡くされました。ここにあらためてご冥福をお祈りします。

最後になりましたが、応物の同窓生の皆さんが活躍しておられることは教員のみならず現役の学生達にとっても大きな励みとなっております。同窓生の皆様には是非先輩風(?)を吹かして気楽に大学にお立ち寄りいただきたいと存じます。

文末ではありませんが同窓生の皆様のご多幸と益々のご活躍をお祈りいたします。(応用物理学科主任教授)

何ができるのか

八木 邦夫



9月に娘がロスで挙式する予定でしたが、直前にトムクランシーもどきの例のテロ事件が発生し大幅な予定変更となりました。私の周りにもモンリオールでの国際学会発表を取りやめた人、あるいは業務出張が出来なくなった人等多くの影響がありました。しかし

これらのテロ事件に腹を立てることは簡単ですが、事件の本質を捉えないで再発を防ぐことは不可能でしょう。アフガニスタンの現状を見たとき、先進諸国とのギャップの大きさに驚かざるをえません。いくら武力で抑えても、貧困・社会的不平等が無くならない限り、これらのテロ行為は続くでしょう。

23年前のペルーでの光景が目には浮かびます。マチュピチュの遺跡観光の帰り道、遺跡から麓の駅までの九折の坂道をバスの中の観光客が投げるキャラメルやガムを求め、裸足で滑り下りていたインディオの子供たち。その子供たちに包み紙だけを丸めて投げ、笑っていた白人観光客たち。あの子供たちがセンドロルミノソの兵隊になっていたとしても私はまったく驚かない。

今われわれに出来ることは…

今われわれがしなければならないことは…

(応物・昭和42年卒・㈱ディエス技研)

今どきの高校生

安達 泰二



今、私は兵庫県の公立高校で教師をしています。仕事柄、生徒と進路についての話をすることが多く、そんな時は自分の学生時代とダブってしまいます。私は1、2回生当時テニスに明け暮れてろくに勉強もせず、休講の掲示があれば跳んでテニスコートに行っていました。

4回生の研究室では多くのすばらしい先生方に面倒を見ていただいて充実した時間を過ごすことができました。当時の出来事や感覚が懐かし思い出されます。

最近、学生の学力低下が叫ばれていますが、その実態は世間が想像する以上ではないでしょうか。基本的な計算力や文章力がなく、小学校段階でのつまづきをそのまま高校に持ち込んでいる生徒がかなりいます。高校入学当初は、まず、毎日勉強する習慣付けから行わなければならない状態です。補習やその他の様々な取り組みをしていますが、学力以上に心配なことは、指示されたこと

情報工学科

情報工学科の近況

藤原直賀人

平成13年4月の大学院部局化によって、管理運営の主体が学部学科から研究科専攻に移りました。さらに、平成14年4月の大学院再編を文部省に申請中であり、これが認可されると情報工学専攻は、現在の電気工学専攻と応用物理学専攻と合わせて一つの専攻「電子情報系専攻」として生まれ変わります。なお、学部学科は以前と同じで3学科は別々の組織のままです。

さて、本年はIT不況といわれていますが、ITに直接関連した企業の全体的な業績は悪化しているものの、新卒者に対する求人は多く、また情報系以外の企業のIT関連部門も依然として、IT技術者が不足の状態です。従来白物家電と言われていた家電製品にもIT化の波が押し寄せています。このようなIT化の波は殆ど全業種で見られると言っても過言ではなく、今後ますます情報技術者に対する需要は増えるものと考えられます。このような背景のもと、本年の企業の求人活動は昨年以上に熾烈であり、不況不況といいながら直接求人のために訪問される企業の数は昨年をはるかに越え、郵送による求人を含めると400社以上となっています。

大学院につきましては、学部定数が15名の時代の最後の学生が4回生となり、来年からは22名定数の4回生が誕生します。本年は求人数も非常に多く、多くの企業には心苦しいのですがお断りしていましたが、来年度からはもう少しご要望に応えられそうです。

大学を取り巻く環境は年々変化していきます。大学の予算は教員自らが確保するという傾向が年々強くなってきます。大学教員に対する刺激にはなりますが、一方腰を据えた研究への取り組みが行い難くなってきます。この方向で進むのが本当に良いかどうか真剣に考える必要があらうかと思えます。教育・研究の制度を変えると、後日それが間違いであったと気づいても引き返すのは極めて困難になることが考えられます。国が教育に注ぐ予算は、GDP比や国民総所得比で見ると米国の1/2程度、ヨーロッパの1/3程度というデータもありますので、国は教育の大切さを考えてほしいと思う昨今です。

(情報工学科主任教授)



しかしない生徒がとて多くなっていることです。今の社会では、どこの大学を卒業したかより、何を学習してきたか、そして何が出来るかをはっきりと示すことができる学生が求められていると思います。一人でも多くそんな学生を送り出したいと思っています。
(応物・昭和55年卒・兵庫県立宝塚北高等学校)

近況

竹中 量子



昨年の冬、お世話になった西村先生の退官の際に久しぶりに大学を訪れました。立派な図書館もでき、通りや校舎も所々新しくなって、ずいぶん変わったと感じました。一方で、いつお会いしても、西村先生、中山先生は私が学生だったときと変わらず、エネル

ギッシュで、たくさんの元気をもらうことが出来ます。研究室にいたころは、厳しさばかりを感じていましたが、今になるととても温かく懐かしい気持ちになります。

現在、地元和歌山の島精機製作所に就職して7年目です。アパレルデザイナー向けのペイントツールのプログラマーをしています。物理とはまったく縁のない会社に飛び込み、残念ながら実験・研究といったことから、すっかり足が遠のいてしまいました。先生に研究のお話を伺っても理解するのが年々難しくなっていくことはとてもさびしい限りですが、仕事をしていく中で、デザインやカラーコーディネートに興味を持つようになり、新しい趣味を持ち、学生のときには考えられなかった世界が広がったことは財産になりました。これからも、日々いろいろなことを吸収していきたいと思えます。

(応物・平成7年卒・(株)島精機製作所)



桜植栽記念碑 (スポーツハウス西側三角地)

古くより愛唱されてきた道徳歌「桜花標」にちなみ 本学が創立120周年を迎える2000年を期して キャンパスを桜の花で埋めようという山本研二郎8代学長からの提唱があり これに賛同する卒業生および大学関係者から7,300万円余の募金が集まりました

杉本および阿倍野両キャンパスが 広く市民にも愛される桜の名所となることを期待しつつ 植栽記念の碑をごここに建立します
2001年4月吉日

大阪市立大学同窓会連合会

碑文 (記念碑の裏側)

生物応用化学科

社会人になってから経験した事

白幡 園子



大学院を卒業してから月日が経つのは早いもので、社会人3年目も残すところ半年を切ってしまいました。社会人になってから本当に時間の経つのが早く感じられてなりません。現在の会社に就職してから現在にいたるまで、同じ部署でお仕事させて頂いております。

私は大変環境的に恵まれて、何時も楽しく働いております。

社会人になってから新たに始めた事に、スポーツがあります。今まで体を動かすことに縁のなかった私ですが、同期入社の友人に誘われてなんとなく始めてから、会社帰りにバッティングセンターに行ったり、休日にテニスをしたりと、学生の頃より健康な生活を送っております。

社内での立場も3年目になると徐々に変化し、新入社員の指導を行うようにもなりました。恐ろしい話です。新入社員のE君には申し訳ないのですが、大変良い経験をさせて頂いております。

このように新しい事に手を出しつつありますが、今後とも貪欲に色々チャレンジしていきたいと思っております。

(情報・平成9年卒・嵯松下ソフトリサーチ)

近況報告

城戸 清規



大阪市立大学での6年間の学生生活を終え、現在の会社に就職したのが今年の4月。社会人になって早くも半年以上経ちました。私はこの半年間、導入教育、工場実習、販売実習、ソフトウェア研修と、様々な研修を受けていました。この間に、同期で他社に入社した

友人達は次々と配属され、自分だけいつまでも研修ばかりでいいのだろうかと不安になった事もありましたが、今思い返せばそれぞれ非常に貴重な経験をさせて頂いたと思います。特に、大勢の同期や他の人達と知り合い、様々な人達から様々な刺激を受け、自分自身の考えの幅を広げられた事は非常に良かったと思います。

つい最近まで研修だったという事で、実はこの原稿を書いているつい一週間ほど前に正式配属されました。配属先はデジタルAV機器のプラットフォームの開発をしているチームです。新しい分野で競争も激しく、大変な仕事ですが、同時に非常にやりがいのある仕事ですので、今の新鮮な気持ちを忘れずにがんばっていききたいと思います。

(情報・平成13年修・松下電器産業㈱)

生物応用化学科の近況

大嶋 寛



卒業生の皆さん、お元気でご活躍のことと思います。平成2年に本学科が新設されてから、早11年が過ぎようとしています。学科設立当初の大学院は、応用化学専攻でした。当時専攻運営上のトラブルが少しありましたが、大学院生は立派に巣立って行きました。生物応用化学専攻としては、平成8年には後期博士課程まで設置が整い、平成11年には本専攻としては初めて4人の博士を世に送り出し、現在、大学および企業で活躍中

です。現在までに、学士(工学)135名、修士(工学)51名、博士(工学)7名が、卒業あるいは修了しました。博士号を取得した7名のうち1名は、企業に勤めながら大学院に入学できるという制度を活用した、いわゆる社会人ドクターです。今社会人ドクターが増えつつあります。留学生も博士号を取得して新しい第1歩を踏み出しました。現在の留学生は残念ながら1人で、タイから来られた大学教員のJaruvan Maneesriさんです。来年度末には博士号を取得すべく頑張っています。学科および専攻のアクティビティは教員と学生の努力の上に成り立っています。その大きな指標である研究成果は、最近5年間(H8-12)を例にとると、学術論文(含国際会議論文)約200報、民間・その他機関との共同研究約40件を数え、今後、卒業生の皆さんと現役学生とともにさらなる発展に努めたいと思っております。

学生定数15名でスタートした生物応用化学科でしたが、現在定数21名となり、29人が入学した第1期生当時の賑わいを見せつつあります。大学も様々な変革を迫られており、学生も「何を教えられたか」から「何ができるようになったか」ということがはっきりと評価される時代になってきています。来年度から、学部は今のままですが、生物応用化学専攻と応用化学専攻が一緒になった化学生物系専攻がスタートする予定で、12月の文部科学省からの正式認可を待っているところです。これによって、学生は、広く自分の進路を選択できるとともに、広く学習できる道が開かれることとなります。卒業生の皆さんからも様々な意見を寄せていただければ幸いです。

生物応用化学科発足以来、今までに、太垣和一郎教授、木下雅悦教授、加藤錠治教授、仲矢忠雄教授が定年退職され、北條裕信講師、岡本裕行助手が移動されました。また、大学院の非常勤教授をお願いしておりました富永嘉男先生(大阪市立工業研究所所長)も今年度で定年退職されるということで、来年度からは、現在生物応用化学専攻との連携大学院教授である杉原歌雄先生(大阪市立工業研究所)にバトンタッチしていただくことになりました。富永嘉男先生には、いままでのご苦勞に感謝申し上げます。今年度より教員は、すべて大学院工学研究科生物応用化学専攻所属となりました。また、串部宏之

講師が本来の専門である共通分野（応用数学）に移られ、生物情報学分野には、4月より新しく立花太郎助教授が赴任しました。立花助教授の専門は分子細胞生物学です。また、カナダのMcGill大学で酵母の細胞壁に関する研究を行っていた東雅之助教授が、4月に帰任しました。帰るといろいろと忙しいので、もう既にカナダの生活の2年ぐらいいは過ぎたような気がするということです。

それでは、皆さん、健康に留意され、益々活躍されることを祈っております。この小文を書いている間にも皆さんの顔が次々と現れてきます。大学に来て下さい。待っています。
(生物応用化学科主任教授)

近況

加藤 建一郎



生物応用化学専攻を卒業してから2年半が経ちました。

私は、入社以来一貫して、ウレタン原料（イソシアネート、ポリオール）の品質管理に携わってまいりました。一言で品質管理といっても、それにかかわる業務は新規製品の開発フォローから、製造

工程トラブルフォロー、お客様からの品質に関するご相談（という名のクレーム）、ISO対応……と製品寿命の最初から最後まで多岐にわたります。

近年はVOC（揮発性有機物）規制、PRTR（環境汚染物質排出移動登録）等、環境・健康面に配慮したモノ作りが求められるようになりました。このような状況のもと、一般的に地味なイメージに受け取られることが多い品質管理という仕事を「もう間接部門とは言わせない!!」を合言葉に、日々職場の花形となるべく精進しております。

このように品質管理に厳しい？私も、ついにこの6月、数多くの女性に惜しまれながら？結婚いたしました。

学生時代は酒に呑まれ、つい最近までは仕事にのまれていましたが、今は妻との愛にのまれ、ささやかではありますが確実な喜びを日々感じています。

(生応化・平成9年卒・住化バイエルウレタン(株))

臨床試験を少し経験して

田内 健



近況の報告を依頼され、何を書くかかと考えているうち、卒業してからまだ一年半程しか経っていないことに気付きました。何年も前から働いているように感じるのは、夢中で仕事をしていないことなのかな？などと入社してからのことを思い返してしまいました。

私は化合物が薬として承認される為に必須である臨床

試験（治験）に携わっています。この仕事は臨床のことは勿論のこと化合物の基礎的な特性や法律に関することまであらゆる面に精通していなければならず非常に奥の深い仕事であると思っています。そのため、1年や2年経験しただけではどのような仕事であるか十分に理解出来ていませんし、説明することも出来ません。ただ、言えることは他の実験と違い患者さんを対象とした試験を組んでいるので絶対に失敗できないということです。入社して間もない頃に口を滑らせて「実験」という言葉を使ってしまい先輩に怒鳴られたりもしました。

決して楽な仕事ではありませんが、5年後、10年後自分がどのようになっているのかを想像しながら過ごしています。
(生応化・平成12年卒・小野薬品工業(株))

知的材料工学科

知的材料工学科の近況

橋本 敏



「光陰矢のごとし」学科開設から早や二年と半年がたちました。昨年の末に完成したG棟への一部研究室の引越しもおえて、新春には三回生17名、二回生25名に加えて第三期生22名を迎え、教員・学生一同元気に研究、教育、勉学に励んでおります。学科を構成する

4分野で現在進行中の研究内容をご紹介します。

材料知能工学分野では平成10年度から新エネルギー・産業技術開発機構（NEDO）の大学連携型産業科学技術研究開発プロジェクト「知的材料・構造システム」を担当しており、高分子系複合材料の製造課程の知能化に取り組みしています。具体的には、光ファイバーをひずみセンサーとして使用し、複合材料製造中の内部ひずみをモニタリングしながらコンピュータを援用して自動的に効率よく製造するシステムの研究・開発です。

材料数理工学分野では、材料のミクロな特性を知って、集合体になった場合のマクロな特性を導き出すための平均化手法の理論的・実験的研究や、超音波などを使った材料評価の研究を行っています。最近では、知的複合材料の成形法や新しいセンサーの開発研究、鉄鋼材料の磁歪を利用した残留応力の非破壊評価法の研究、 piezoelectric セラミックスを複合材料の成形時に埋め込んで、各種の量を検出する研究などに取り組んでいます。

材料機能工学分野では材料の高機能化をめざして、実験とシミュレーションの両面から主に金属の結晶塑性と破壊、強度発現機構の基礎と応用研究に取り組んでおり

ます。多機能ナノ構造材料の変形特性や疲労強度などの強度物性、バルク・アモルファス金属の変形とアコースティックエミッション、き裂の核生成と成長の抑制を目指したナノ多層膜コーティング技術、走査電子顕微鏡による非破壊的結晶転位構造観察、自己組織化転位構造と強度の3-Dシミュレーションを手がけております。

量子物性工学分野では、レーザー光、電子線、マイクロプローブによる電子・正孔注入などにより、固体表面電子系を励起すると、表面原子結合が局所的に切断され、原子構造の変化や原子の放出が誘起されることを応用した研究をおこなっています。表面科学と光物性学の手法とを効果的に有機させ、電子励起による結合切断の機構解明を進めると共に、電子的結合切断の誘起性・選択性等の特長を積極的に利用した固体表面原子操作法の開発、電子励起による表面ナノ構造の創製及びその組織化を通した新規の表面構造相構築の可能性を探索しています。

(知的材料工学科主任教授)

環境都市工学科

環境都市工学科の近況

土井 幸平



21世紀になりました。工学部同窓会の皆様におかれては、ますますご健勝にて各方面でご活躍のことと拝察しお慶び申し上げます。

3年前に誕生した環境都市工学科は、今年24名の新生を迎え、一期生17名、二期生22名とあわせて総勢63名となりました。教員は12

名。山椒は小粒でもピリッと辛いという俚諺がありますが、そのとおり、皆はつらつと勉学に研究にそして課外活動に励んでいます。

いよいよ今年度後半から来年度にかけて、一期生の進路選択が始まります。半数は大学院に進学し半数は社会に旅立つことでしょう。これまで卒業生のいない新学科ですから、先輩の歩いた踏み跡がありません。自分の足で社会に道を切り拓くことになります。とは言っても社会の多くの分野で《環境》は今大事なキーワードです。工学部の先輩方の多くも、それぞれの分野で《環境》というコンセプトに取り組んでおられるに違いありません。このような時ぜひ母校の環境都市工学科の存在を思い起こして下さい。環境都市工学科の学生には、工学基礎をしっかりと体得させるとともに、地球環境問題を都市において解決するための社会への広い視野と工学コンセプトを持った技術者として育成しています。

工学部同窓会の皆様、新しく社会に出る環境都市工学

科学生の進路選択について、いろいろと相談ののっていただくよう、またご支援を賜るよう心よりお願いいたします。

環境都市工学科の、設立理念と教育研究の四分野の紹介をさせていただきます。

環境都市工学科は、21世紀の都市を「地球環境の負荷を低く抑えつつ、自然と共生し、人々が生き生きと暮らせる安全で美しい都市空間を持った都市—環境都市」に創造することを目標に、「環境創造エンジニアリング」と「環境創造プランニング」の両面から教育研究を行います。次の四分野から構成するとともに、他学科・他分野と連携した学際的かつ実践的な教育研究をめざします。

- ① 環境都市計画分野：都市計画の視点、即ち土地利用計画、都市デザイン、まちづくりの視点から、環境都市のあり方を追究し、経済学・行政学・生態学などの他分野とも連携して教育研究を行う。(土井幸平教授、赤崎弘平助教授、中村仁助手)
- ② 環境水域工学分野：河川の流域、河口、海岸などの都市を取り囲む水域を対象とし、都市を災害から守るとともに、生物生息環境の保全・復元技術、水域汚濁機構の解明と浄化技術に関する教育研究を行う。(小田一紀教授、矢持進助教授、重松孝昌講師)
- ③ 地域環境計画分野：日射・温湿度・風などの気象、騒音・大気などの都市の物理的環境を対象とし、人々が健康かつ快適に生活できる都市域環境のあり方を追究する教育研究を行う。(三木信博教授、西岡真稔講師、鍋島美奈子助手)
- ④ 都市リサイクル工学：都市では多くの資源・エネルギーが消費され、汚染やゴミ問題が深刻です。資源・エネルギーの有効利用、汚染物質の除去・安全管理など、循環型社会創出のための技術に関する教育研究を行う。(山田優教授、貫上佳則助教授、西元央助手)

(環境都市工学科主任教授)

磯村大阪市長の礼状

各位
 敬啓
 盛夏の候、ますます御健康のこととお喜び申し上げます。平素から大阪市へのオリンピックの招致に、格別の御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。さて、御承知のこととは存じますが、去る七月三日のI.O.I総会におきまして、二〇〇八年、第二九回オリンピック競技大会の開催都市に、北京市が選定されました。これまで、貴会をはじめ全国の皆様の御支援、御協力を賜りながら、市民とともに開催者が一九九〇年、マニラオリンピックの大阪招致に全力を尽くしてまいりましたが、その念願はかなわず強に残念に存じます。これまでに賜りました御厚力に、改めて深く感謝を申しあげ、まずは寸書をもって、御礼の御挨拶とさせていただきます。此致
 平成一三年七月二三日
 財団法人 大阪オリンピック招致委員会 会長
 大阪市長 磯村 隆文

事務局年報(2000・10～2001・11)

2000年(平成12年)

- 10月：同窓会報第16号を発送・配布(3日)。次期同窓会長の候補に行藤三男(電気36年卒)氏が内定(29日)。第3回キャンパス交流会(講演会と懇親会)を杉本キャンパス内の学術総合センター(通称：学情)で開催(28日)。
- 11月：大阪市立大学同窓会愛知支部総会に、当会事務局より人見担当理事が初出席(7日)。当年3回目の未納終身会費を督促(27日)。
- 12月：市大広報第43号を学外の理事・評議員及び大学院生評議員に配布(20日)。次期副会長候補に中田忠(機械26年卒)・山口南海夫(電気44年卒)の両氏が内定(26日)。

2001年(平成13年)

- 1月：中島理事(保坂監事の代理)が会計監査(18日)。第14期第5回理事会にて、第12回評議員会の議案を検討・決定(19日)。終身会費納入者に会員名簿(1999年版)贈呈を通知(29日)。
- 2月：第12回評議員会にて、第14期(1999/1～2000/12)の経過報告・決算報告及び第15期(2001/1～2001/12)の新理事会役員・事業計画・予算を決定。その後「同窓懇親パーティ2001」を開催し交流・親睦を促進(13日)。
- 3月：新パート補助員に西田よし子さんを採用。故植村昭男(土木23年卒)さんへ弔電(6日)。2001年度新入生に対する当会の案内・会費払込み要請書等の配布を教務係に以来(8日)。第12回評議員会欠席者へ評議員会報告を送付(12日)。工学部・工学研究科送別式に行藤会長、中田、山口両副会長、及び理事有志が出席。式後の「鏡割り」は教授会の意向に沿い本年は中止(23日)。
- 4月：大阪市中央体育館にて母校の2001年度入学式(5日)。杉本キャンパスのスポーツハウス前三角地での、桜植栽記念碑の除幕式に、行藤会長、廣岡前会長及び理事有志が参列(23日)。
- 5月：当会事務局への学内LANケーブルの配線工事終了(21日)。当会事務局に留守番電話を導入(30日)。
- 6月：第110回市大ボート祭にアドバルーンの掲揚で協賛(16、17日)。市大広報第44号を学外の理事・評議員、及び大学院生評議員に配布(21日)。
- 7月：未納終身会費の督促状を発送(6日)。第15期第1回理事会で、2002年の第13回評議員会・講演会・懇親会の杉本キャンパスでの開催、3常任委員会(財務・行事企画・会報編集)の設置を決定(11日)。市大同窓会連合会役員会、及び阿倍野キャンパスの桜植栽記念碑竣工の集いに行藤会長・中田副会長が出席。故苑樹寛(土木38年卒)さんに弔電(27日)。
- 8月：工学部学術情報交流センター夏季休館(13～17日)。故上神謙次郎先生(機械工学科教授)の告別式に弔電・献花(25日)。
- 9月：市大広報第45号を学外の理事・評議員、及び大学院生評議員に配布(10日)。故三村三木夫先生(応用物理学科助教授)の告別式に弔電・献花。故勝俣五男先生(元応用物理学科教授・本学名誉教授)に弔電(26日)。

10月：故市川勝久(土木24年卒)さんに弔電(24日)。

11月：大阪市立大学同窓会愛知支部の平成13年度総会に人見理事が出席(13日)。第15期第2回理事会で、2002年の講演会のテーマと講演者を検討(15日)。

第15期理事会役員名簿

(2001年1月～2002年12月)

会 長	行藤	三男	(電36)		
副会長	中田	忠	(機26)		
副会長	山口	南海夫	(電44)		
理 事	副松	晃	(機26)	下田	隆二(機29)
	人見	宗男	(機31)	南斎	征夫(機39)
	東	恒雄	(機41)	宮本	万功(機43)
	笠上	文男	(機50)		
	中島	弘	(電25)	栗政	幸一(電31)
	建部	渉	(電35)	矢野	孟彦(電36)
	南	繁行	(電45)	串坂	徹(電55)
	村治	雅文	(電62)		
	津田	恒次	(化29)	廣岡	孝一(化29)
	福山	泰夫	(化32)	近藤	紘一(化37)
	山田	文一郎	(化M40)	三浦	洋三(化42)
	大嶋	寛	(化49)	大槻	荘一(化55)
	坂内	幾男	(建24)	大東	清四(建25)
	都築	周	(建29)	多胡	進(建34)
	坂	壽二	(建42)	赤崎	弘平(建45)
	山道	正男	(建45)	大井	昇二(建47)
	植木	正富	(土24)	井上	保(土26)
	吉村	憬	(土32)	園田	恵一郎(土36)
	伊藤	和雄	(土38)	小林	治俊(土45)
	日野	泰雄	(土50)	大島	昭彦(土55)
	繁澤	孝	(物32)	川上	一夫(物35)
	田守	芳勝	(物38)	増岡	俊夫(物38)
	和倉	慎治	(物45)	宇佐美	照夫(物46)
監 事	新保	市弘	(電35)		
監 事	志野	太一	(物40)		

= お 知 ら せ =

★ **事務局に「e-mail」を開設!**

本年12月中旬、下記アドレスの「e-mail」を、当会事務局に開設します。

dousoukai@office.eng.osaka-cu.ac.jp

★ **“観桜ホームカミングデイ(仮称)”を初開催**

来年4月の桜の咲く頃、桜植栽の完成を記念するホームカミングデイを開催する件が、同窓会連合会を主体にして検討されています。

★ **大阪市立大学文化交流センターが来春に移転**

来春、大阪駅前第3ビルにある文化交流センターは、同第2ビルに移転・拡張され、母校では利用面の改善も検討中とのことです。

工学部の電話番号[06-6605-(下記番号)] (2001.10.1.現在)

機械工学科	電気工学科	応用化学科	建築学科	土木工学科	応用物理学科
野邑 奉弘 2663	鈴木 裕 2676	小槻 勉 2693	谷池 義人 2764	小林 治俊 2173	中山 正昭 2739
西村 伸也 2664	南 繁行 2760	澤井圭二郎 2694	木内 龍彦 2706	角掛 久雄 2723	溝口 幸司 2174
伊奥田浩志 2963	武智 誠次 2677	五百井正樹 2977	谷口 徹郎 2707	北田 俊行 2734	金 大貴 3087
東 恒雄 2666	志水 英二 2678	小澤 文幸 2884	坂 壽二 2708	山口 隆司 2765	中山 弘 3088
加藤 健司 2665	高橋 秀也 2679	南 達哉 2980	谷口与史也 2709	松村 政秀 2735	福田 常男 2738
脇本 辰郎 2965	重田 和夫 2761	片山 博之 2885	那谷晴一郎 3076	高田 直俊 2724	北田 忠義 3089
南齋 征夫 2667	青笹 正夫 2680	三浦 洋三 2798	西岡 利晃 2992	東田 淳 2725	細田 誠 2742
吉岡 真弥 2967	草間 稔 2681	圓藤紀代司 2697	梅宮 典子 2710	大島 昭彦 2996	曾我部 伸 2740
川上 洋司 2668	田中 健司 2975	米澤 義朗 2770	大倉 良司 2711	日野 泰雄 2730	増岡 俊夫 2879
佐藤 嘉洋 2670	松下 賢二 2792	米谷 紀嗣 2984	杉山 茂一 2176	内田 敬 3099	小林 中 3095
脇坂 知行 2671	中川 吉郎 2878	山田文一郎 2797	藤本 益美 2989	吉田 長裕 2731	小村 勝弘 2768
瀧山 武 2672	宮崎 大介 2877	松本 章一 2981	徳尾野 徹 2713	角野 昇八 3078	寺井 章 2748
高田 洋吾 2970	辻本 浩章 2685	セカンドパルポー 2189	難波 和彦 2199	鬼頭 宏明 3050	加藤 岳生 3090
	村治 雅文 2976		中谷 礼仁 2714	麓 隆行 2780	
情報工学科	生物応用化学科	知的材料工学科	環境都市工学科	共 通	事務室等
濱 裕光 2772	井上 英夫 2782	福田 武人 2660	土井 幸平 2715	(応用数学)	学務係 2653
柳原 圭雄 2773	笠井 佐夫 2783	逢坂 勝彦 2962	赤崎 弘平 2717	多羅間茂雄 2669	学務係 2651
前川 義治 2763	北村 昌也 3091	高坂 達郎 2182	中村 仁 2716	鈴木 広隆 2712	学情サブセンター 2657
岡本 次郎 2684	大嶋 寛 2700	元木 信弥 2661	三木 信博 2993	串部 宏之 2747	
平井 誠 2683	東 雅之 3092	山崎 友裕 2181	西岡 真稔 2718	(機械工作室)	
中島 重義 3096	五十嵐幸一 2699	大島 信生 2961	鍋島美奈子 2719	若林三記夫 2969	
辰巳 昭治 2688	玉垣 誠三 2965	橋本 敏 2673	小田 一紀 2732		
北村 泰彦 3081	長崎 健 2696	A・ビノグラトフ 3049	矢持 進 2175		
藤原直賀人 2689	東 秀紀 2168	兼子 佳久 2179	重松 孝昌 2733		
岡 育生 2779	山内 清 2703	森 雄造 2743	山田 優 2727		
阿多 信吾 2191	田辺 利住 3094	金崎 順一 2741	貫上 佳則 2728		
村田 正 2795	立花 亮 2702	近藤 孝文 2194	西 元央 3048		
杉山 久佳 2796	荻野 健治 2799				
辻岡 哲夫 2192	立花 太郎 2167				

2001年卒評議員

新評議員(2001年卒)は以下のとおりです。
クラスメートの各位はよろしくご協力下さい。

学 科	2001年卒評議員名
機 械 工 学 科	四宮 徳章・西田 幸平
電 気 工 学 科	油谷 昌浩・犬石 努
応 用 化 学 科	原田 隆宏・平野絵麻理
建 築 学 科	菊池 浩輔・吉川 貴啓
土 木 工 学 科	今北 洋二・錦織 陽一
応用物理学科	高辻 和明・三浦 光博
情 報 工 学 科	岡田 忠憲・鈴木 智
生物応用化学科	水瀧 雄介・藤原 正裕

編集後記

21世紀最初の今年も、景気には回復の兆しがありません。当
会員もご苦労なさっていることと存じますが、現在の同窓会では
お役に立てず残念です。

さて、当会の会報は、昨年より24ページに増やし、本年からは
より多くの会員短信・クラス会報告等を掲載するとともに、
編集方針も更新する予定でしたが、お届けした17号会報では実
現出来ませんでした。

本年3月には、母校の5名の恩師が目度くご定年をお迎えに
なり、建部渉(電気)先生、園田恵一郎(土木)先生、および
西村昂(土木)先生のお三人がご寄稿下さいました。

そして、この17号には、福田武人工学研究所長兼工学部長と
行藤三男新工学部同窓会長のご挨拶、工学部10学科の主任教授
による各学科・各専攻の近況報告、正会員26名の会員短信、昨
年10月以降の事務局年報、2001年の新入生と卒業・修了生の名
簿、および新卒評議員名等を従来通りの編集で掲載しました。

なお、母校では今年4月に大学院部局化が実現し、先生方の
所属が大学院工学研究科になりましたが、来年4月には更に4
専攻に再編されるようなので、本号では各専攻の主任教授を学
科の主任教授として記載しました。

では、新春のご活躍を祈ります。(N.Y.生)

編集委員

○山口南海夫(電気・昭44年卒) 南齋 征夫(機械・昭39年卒)
村治 雅文(電気・昭62年卒)△大嶋 寛(応化・昭49年卒)
赤崎 弘平(建築・昭45年卒) 大島 昭彦(土木・昭55年卒)
増岡 俊夫(応物・昭38年卒) 人見 宗男(機械・和31年卒)
(但し、○印:委員長、△印:副委員長)

《会員各位へのご案内》

“工学部同窓会の集い” — 第4回キャンパス交流会 —

★日 時：2002年2月16日(土曜日) 午後3時10分～午後6時30分

★講演会：会場＝大阪市立大学 学術情報総合センター（1階）文化交流室
時間＝午後3時10分～4時40分

1) “大阪市立大学における産学官連携の取り組みと課題”

大阪市立大学 大学院工学研究科長
兼 産学官連携交流促進委員長 福田 武人 先生

2) “生体における微量金属の役割”

大阪市立大学 大学院工学研究科教授 荻野 健治 先生

★懇親会：会場＝大阪市立大学 学術情報総合センター（1階）ウイステリヤ
時間＝午後5時00分～6時30分

会費＝3000円（当日に徴収させていただきます）

この懇親会には、多数の恩師にご臨席をお願い申し上げる予定です。
会員各位も市大同期生や、職域同窓生をお誘い合わせの上、是非ご
出席下さい。ミニクラス会としての参加も交流会毎に増えつつあり、
当同窓会も大歓迎です。

【お申込の方法】

①ご氏名、②学科(専攻)名、③卒業(修了)年、④ご住所、⑤講演会(無料)
への出欠、⑥懇親会(会費3000円)への出欠を、2002年2月8日(金)迄にハガキ
又はFAXで、下記の当会事務局にご連絡下さい。

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪市立大学工学部同窓会事務局

FAX (06) 6605-2769 TEL (06) 6607-8373